

# 豆の町（ビーンタウン）から

ここにちは（第12回）

会員家族 住井 円香

■ヴェネツィア神話を創り上げたブランド戦略の学びから感じるアメリカの価値観

新学期が始まり、西洋美術史の授業で「ヴェネツィア神話（Myth of Venice）」と呼ばれる概念を学びました。ここでいう神話とは、メソポタミア神話やギリシア神話のような古代の人間の想像力によつて育まれた神々の物語とは少し異なるようです。これから何か月もかけてこの概念をより深く学んでいくため、まだ私もはつきりわかつているわけではありません。ですが、自分の理解のためにも、この概念が何を指すのか、

週間目の今でさえ頭がパンクしそうになるほど、いろいろな設置例を写真で見ることになりました。

これらの宗教的・神話的なオブジェと交易や十字軍の派遣などを通じて得た異国の素材やデザインの知識を組み合わせ、ヴェネツィアは異文化と繋がる、清らかな正義の海洋国家として内外にアピールすることに成功した、と教授は仰っていました。現代的に言い換えれば、ブランド戦略に長けた都市国家だったのかかもしれません。

前置きが長くなってしまいました

しかし、決してすべての学生が幸福というわけではないし、お金を得る機会が用意されていない、というの一つには「自由」もあるよう思われでもありません。例えば、ペル・グラントという連邦政府が支給する金銭的に困窮する学生向けの奨学金や、ワーク・スタディという同じく政府が認めた学生を対象に大学内、もしくは指定された地域での仕事を通じて賃金が得られる仕組みなどもあります。

各大学も、アメリカ国民である学生に対しては、返済不要の学資援助が、この授業をきっかけに、アメリカにとっての「神話」とは何なのだろう、ということを考えるようになりました。誰でも努力を重ねれば、豊かさを得られるという「アメリカンドリーム」は、大学内の様子からはあまりピンときません。当たり前のようにシヤネルやディオールなどのブランド物のバッグを授業に持ってくるクラスメートや、次から次に有名アーティストの公演に繰り出す知人たち、高級レストランでの食事の様子をSNSのインスタグラムで度々投稿する卒業生など、どこか大げさに思えるが、実際には、多くの大学は合否を決める際に、家庭の経済状況や学費支払い能力も考慮します。個人の経済的背景が合否の判断材料に含まれるとなると、良い教育を受けて良い就職を目指そうとしても、大学受験でそ

空間に思えることもあります。

の「アメリカンドリーム」が通用しないケースもありそうです。

ということだが、議論を推奨し、長年

また、アメリカを象徴する価値観の一つには「自由」もあるよう思っています。ニューヨークにある自由の女神や、ペンシルベニア州・フィラデルフィアにある自由の鐘など、建国の歴史にちなんだオブジェには自由を強調するものがあります。

私も高校時代に一度日本に戻り、ボストン大学に入学したことでの由を強調するものがあります。

NPO法人の個人の権利・表現財団が、学生への調査をもとに実施し

たキャンパス内の言論の自由度ラン

キングでは、半数以上の大学が通知

するようになってきたようです。

ボストン周辺の2大学がワースト10位にランクインしていました。その

一つ、ボストン・カレッジは、閑静な郊外に位置し、イエズス会の教えに基づいた利他的な精神が知られる人気の大学です。大学側がパレスチナを支持する学生のデモを制限したことや、学生へのアンケートで「自分

が何をやっていることでもごく当たり前の前です。多くの学生にとっての「住まい」である寮と大学が一体となつ

化する前の1・2年生は部屋着のようないい」という意見が本格化する前です。多くの学生にとっての「住まい」である寮と大学が一体となつ

ています。特に、学力だけでなく、課外活動や推薦状を含めた

ことはなく、多くの大学がワースト10位にランクインしていました。その

一部を除く、私が通うボストン大学

も、もう一つの大学は、ボストン美術館のすぐそばのノースイースタン大

一方で、服装や日常的なふるまい以外の側面が自由なのかという点においては、疑わしくも思えます。ど

ういう意見なら口にしても良いことと、どのような意見は口にすることが許されないのか。そうした面

ラズ・シーガル氏による講演を急遽取りやめたことや、学生アンケートの結果では、「政治的に福音派意見こ

多くの大学が政治的に多様な意見が受容される環境ではもはやないのか  
もしません。

してロゴに取り入れました。ただ古さと新しさの両立というのは、世界中の他の大学や、街でもPRして

■ 大学内の「お城」

ボストン大学の真ん中を走るコア

「寛容か」などの項目で、他校よりも低い結果が出たことなどがランキン  
グ結果に反映されたということです。

先日、アメリカで保守派の政治活動家でトランプ大統領の熱烈な支持者だったチャーリー・カーキ氏がユ

いることのようにも感じます。「ヴィーネツィア神話」のような、唯一無二の倫理観にも訴えかけてくるような

ボストン大学の真ん中を走るコーンウェルス・アベニユーを一本奥に入った道に、チューダー朝風のこじんまりとした「お城」があります

ボストン・カレッジとハーバード  
スタン大学の両校は、学業面でもス  
ポーツ面でも、私の大学のライバル  
校と位置づけされているためで、  
ひよつとして書きながら多少そうち  
た思いが入つて（まつたかも）（れま

A州にある大学の1ハントで演説中に凶弾に倒れて亡くなるという事件もありました。容疑者は、カーケ氏の政治的言動に不満を持つていた、と言われています。この事件の後ABCテレビは自局の番組内で「ト

ノジセリシを打ち出すことは、ややり難いことなのかもしれません。

ウイングリーの邸宅につきそりで、

せん。ただ、ボストン大学も特段自慢できる状況ではないことをその両行の名譽のために記しておきたいと思います。今回、全米111位で、かるうじて半数より上にランクインはしていますが、昨年度イスラエルとハマスの武力衝突に関連した企業

ランプ大統領の支持者が事件を自分たちの都合の良いように使っている」という趣旨の発言をしたコメディアイアンの番組を無期限休止にしました。大学もメディアも政治的対立が厳しい中、こうした余波に揺さぶられる日々がしばらく続きそうです。

のない存在としての説得力を増すことになった、と課題の本の一冊に書いてありました。まもなく建国から250年を迎えるアメリカは、建国時からイギリスから離れるか離れないかも含め、「古さ」と「新しさ」そして個人の権利の保障という意味

業生向けのラウンジや結婚式の会場として使われています。「お城」にはもう一つの顔があります。建物の右側面から古めかしいドアを開けると、ここが学校であることを忘れさせてくれるようなバーズが迎えてくれます。今年、マサチューセッツ

への投資撤退の是非を問う生徒会が行つた学生の投票結果を通知するメールが、大学側に遮断されたことなどを理由に「F評価」となつてしました。

西洋美術史の授業の話に戻ります。初日にはグループに分かれて、大学の「神話」を考え、それを踏まえたロゴをつくる、という作業に取り組みました。私たちのグループ

と、金錢的な意味の「平等」と「格差」など、相反するテーマが、ずっと国を取り巻いているようにも見えなくありません。「アメリカ神話」を作るのはまだ新しすぎる国かもしねれ

セツツ州でも飲酒可能な21歳になつたので、初めてこのパブに行つてみました。店内は、赤と白で彩られたカヌーのオールや、ホッケー・チーロの写真が木の壁に掛けられ、装飾

先述したランギングでは、ポスト  
ン周辺の大学を見る限りでは、イス  
ラエルとパレスチナを取り巻く表現  
への自由が特に問題視されています  
が、アンケート項目にもある通り、

も他のグループも、19世紀から残るレンガ造りの寮や、私が入学した前年に完成したばかりの19階建てのデータサイエンス学部のビルなど、古さと新しさをセールスポイントと

ませんが、対立する価値観が共存して苦悩しながら進もうとしたり、時には後戻りする姿が、国としての特徴の一つかもしれないとも思いました。

もこだわられています。お酒にまつわるルールに特に厳しいボストンなので、年齢確認も入念です。入店すると、まず年齢確認を行うスタッフにパスポートや免許証などの身分証

明書を手渡す必要があり、その身分証明書が偽造されていないかどうかを機械でチェックされます。そして、

身分証明書が本物であると確認されると、手の甲の上にスタンプが押され、ようやく店の中に進むことができます。

店にある50種類のビールをすべて制覇すると景品がもらえる「Knight's Quest」という仕組みもあります。50種類を制覇するのはさすがに大変そうですが、それでも景品目当てで毎週通り詰めている学生もいるようです。課題や作業に取り掛かりながら

お酒を口にしている人も中にはいて、普通のパブではあまり見られない光景かも知れないとも思いました。

全学年の学生が入店できるわけではないことから、店内は混雑しておらず、にぎやかさはありつつも、パソコンで作業している人もいるくらいには落ち着いた雰囲気です。残念ながら「Knight's Quest」のチャレンジは、大学関係者でなければ参加できないのですが、もしボストンにいらっしゃる機会があれば、皆さんもこのパブを訪ねてみてください。